

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2020年11・12月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第617号

平静の祈り  
「神よ、

変えられないことを

平静に受け入れる恵みを、

変えるべきことを

変える勇気を、

そして一方から他方を見分ける知恵をわれらにお与えください」

この祈りは「平静の祈り」と呼ばれています。教会やさまざまな組織の中で、あるいは人生において何かを選び、決断する局面で、この祈りを祈ってきました。

変えることができないことと変えることができることという二つの事柄のうち、変えることができないことが先に来ている。変えることができないことが真の謙遜であり、人間の限界があるということの告白の上に初めて、変えるための勇気というものがあるといえるでしょう。

祈りの作者であるライン・ホールド・ニーバーの娘、エリザベス・シフトンがこの祈りを生み出した状況について書いた『平静の祈り』ライン

ホールド・ニーバーとその時代』という本が、今年9月に出版されました。

その中で祈りの言葉が変わっていることに気づきました。従来「変えることができないことを受け入れる平静さを与えてください」とされていた言葉が「平静さをもって受け入れる恵みを与えてください」となっています。

## 変えられないことと変えるべきこと



財団評議員

増田 琴

ます。

自分の努力で行きつくものというのではなく、「平静」はおのが限界を謙虚に認める「謙遜」と、そのような魂に与えられる「恵み」とに支えられている。そこには、自身自身がそして人間が変えていくという側面と、神が与えら

変えることができないことがある。その通りです。でも、それを認めることは難しいし、平静でいることはできません。『平静さを与えてください』という祈りは、

私たち自身の態度に対するものです。しかし、「平静に受け入れる恵みを与えてください」というのは、受け入れること自体が恵みだと言っている

れる大きな救いの歴史の流れということがあるのです。

2020年のクリスマスを迎えようとしています。今年の今頃、誰がこのような状況を予想できたでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大を防止する

ためにクリスマス賛美歌を歌うこともはばかられ、クリスマス礼拝へ集まることにも不安が伴います。私たちの周りには不安が張り巡らされているように感じます。

そのような中であって、平静の祈り」をもう一度、私たちの祈りとしたと思うのです。「神よ、変えられないことを平静に受け入れる恵みを与えてください」と。

そして、いえだからこそ、私たちに今なしうることを懸命にやっけていきたいと願っています。

危機の時は常に、歴史の転換点と言われてきました。けれども考えてみれば、私たちはいつもそのような時を歩んでいると言っているかもしれない。

クリスマス待ち望む時期をアドベント(待降節)と言いますが、この言葉はアドベンチャー(冒険)と同じ語源をもっています。変えていくことは勇気のいることです。しかし、イエスを救い主として迎える信仰は、自分の居心地の良いテリトリーを出て、新しいあり方を模索することへと導きます。

イエスと出会うために出かけた人々が寒空の中に星に導かれたように、神の導きと平和が私たちの間に行きわたりますように。

(日本基督教団経緯岡教会牧師)

関東活動センター

●2020年度 関東フォーラム 宗教対話III

「悪と苦難の問題を考える」

―なぜこのような苦難を神は許しておかれるのか―

二松学舎大学教授 本多 峰子さん

2020年9月〜2021年3月

会場 日本キリスト教会館

全能で善なる愛の神に造られ、導かれているはずのこの世界にどうしてこれほどの悪や苦難があるのか。このような問題意識に立つた本多峰子先生の講座が、九月から六回にわたって開講されています。新型コロナウイルス禍で開始が遅れていましたが、受講者どうしの距離をとりながら毎回六、七名が教室とともに学んでおり、私たちをとりまく今の厳しい状況をどのように考えるのか、思いを深める良い機会となっています。



全六回のテーマは以下のとおりです。(第一回)一神教

においてなぜ悪や苦難が問題なのか(第二回)アウグス

ティヌスの自由意思論とエイ

レナイオスの成長の理論(第

三回)現代の神義論(第四回)

旧約聖書にあらわれた苦難の

問題(第五回)福音書のイエ

ス(第六回)アウシュヴィツ

ツのユダヤ教徒への応答。

本講座においては組織神学

の視点に留まらず、旧約聖書

と新約聖書の解釈を行いなが

ら、歴史の中で実際に苦難に

ら学びを深めていこうと考

え、私は受講を申し込みまし

た。全六回では回数が少ない

のではと感じられるほど毎回

充実した内容なので、二期目

も開講いただき、各テーマを

より深めていただけると嬉し

く思います。(報告 佐野享子)

●2020年度 関東フォーラム 宗教対話

連続講座『日本キリスト教史を読む』(番外編)

特別講義「スペイン風邪(1918―20年)の時、

この国のキリスト教会はどうしたか」

日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん

でも流行し、日本だけでも推

計45万人が亡くなった。にも

かかわらず、教会史研究の記

録にはその影響や痕跡を見出

すことができない。戒能氏は

キリスト教史に携わる7人で

共同研究を立ち上げ、それぞ

れの研究分野で各教派、学校

の機関紙、個人史などの資料

を分担して調査し、その背景

に迫った。

1918年10月、植民地で

あった台湾の邦人教会で「流

行性感冒」が発生したという

『台北基督教報』の記事を皮

切りに、各地の教会でスペ

イン風邪の罹患者が続出したこ

とが報告され、1920年ま

でに教会やキリスト教主義学

校で現役の牧師8人を含め少

なくとも50人余が死亡してい

たことが分かる。

また、柏木義円、内村鑑三、

中田重治、金井為一郎、高倉

徳太郎の日記から、世界的疫

病を「神の審判」とする内

村や柏木の預言者的な洞察

を除いては、感染症の信仰

的・神学的な意味についての

言及はほとんどないことに注

関西セミナーハウス活動センター

●2020年度「開教教育セミナー」第3回

「中東の今とこれからの日本  
紛争地のリアルから考える」

フリージャーナリスト、西谷 文和さん  
イラクの子どもを救う会  
2020年9月26日(土)〜27日(日)

会場：関西セミナーハウス

メディアが報道しない現地での出来事や背景を通して、平和を実現するための私たちがの選択について考えた。

第1セッションは、欧米や日本の価値観で語られる中東やムスリム像を、ニュートラルに描きなおすために、写真を使って中東を地理的・文化的・歴史的に理解することから始めた。「中東・ムスリム」紛争」のイメージで語られることが多いが、西谷さんはシリアを例に、自由シリア軍・アサド政権に武器を供給し、戦争でもうけている人々の存



在を指摘し、中東での紛争を宗教・領土問題として捉えてはいけないと指摘する。

第2セッションでは、昨年アフガニスタンで命を落とした中村哲さんの活動が紹介された。映像では、ゆったりとした語り口の中村さんが映し出され、現地の人々と信頼関係を築きながら砂漠を緑地帯に変えてきた営みの困難さと重要性を知ることができた。これは、アフガニスタンの人々が平和への道筋を理解し、自分を回復していくプロセスでもあり、何が平和貢献なのかを示唆していた。

第3セッションでは、これ

らの問題を私たちの地続きの問題としてとらえ、解決のためにできることを考えた。西谷さんは、現状のAかBかの選択ではなく、新たなCの解決策を探ること、これは市民

の政治参加によって可能であり、問題を生み出した資本主義を超える「コモン」という概念」がこれからのキーとなるとの提案があった。



主のご降誕を  
お祝い申し上げます。

●2020年度 修学院フォーラム「社会 第1回  
『誰にも言わないと言ったけれど』を「今」  
読むということ—ジェイムス・H・コーンと  
ブラック・ライヴズ・マターを繋ぐ霊性—」

ノースカロライナ大学チャペル  
ヒル校人類学専攻博士後期課程 榎本 空さん

会場：関西セミナーハウスおよびオンライン  
2020年9月19日(土)

コロナ感染症が世界中に広がっている5月、アメリカでジョージ・フロイトと言う黒人男性が白人警察官により圧殺される事件が起き、これをきっかけにブラック・ライヴズ・マター運動が全米に大きく広がった。この運動は2012年に黒人を射殺した白人警察官が無罪になったことに抗議して始まった、黒人



の差別からの解放を求める運動である。黒人神学者ジェームス・H・コーンは、抑圧された人の解放を告げるキリストを信じる人の多いアメリカで、なぜ黒人が400年間に亘って抑圧されてきたのかを問い続けた。彼のユニオン神学校での最後の講義に連なった榎本 空さんが最近、コーンの最後の著書『誰にも言わないと言ったけれど』を

訳して刊行した。今回は今もアメリカに留まり、勉学を続けている榎本 空さんに、ブラック・ライヴズ・マター運動の中で、コーンから何を聞くかをwebを通して語って

いただいた。

コーンは、もともと神学校で組織神学を教える教師であった。しかし1967年29歳の時、デトロイト暴動に出会い、もはやヨーロッパの神学者の言説を白人の学生に教えることはできない、黒人の闘いの中で神学するとはどう感じた。当時はすでにマルチン・ルーサー・キングらによる公民権運動が終わり、黒人の権利を回復する法律も作られていた。しかし、黒人を潜在的な犯罪者と決めつける社会の風潮は変わらなかった。彼にとつて神学するとは、この生きている時代の中でイエスは何処にいるのかを問うことであった。彼の内に炎をつけたのは、都市部で、街角で黒人の身に降りふかかっていた苦しみであり、リンチの木の下で燃えている炎であった。2009年には黒人のオバマが大統領になり、黒人の解放が進むかと期待された。しかし黒人が白人警官により殺害される事件は絶えなかった。それがブラック・ライヴズ・マター運動を生み出した。コーンはその中に共におられ

**プログラム案内**

◆**関東活動センター**

■**2020年度話し方ワークショップ**

「さらに豊かな礼拝のために～ことばを届けるトレーニング」

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会担任牧師)

日時：11月17日、12月15日、2021年1月19日、2月16日、3月16日  
火曜18:00～20:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会  
参加費：1回1,200円

■**2020年度 関東フォーラム宗教対話III**

「悪と苦難の問題を考える一なぜこのような苦難を神は許しておかれるのか」

講師：本多 峰子さん(二松学舎大学教授)

日時：④2021年1月21日⑤2月18日  
木曜13:00～14:30(全6回)

会場：日本キリスト教会館1階16号室  
参加費：1,000円(学生500円)

■**2020年度 聖書を読む講座I**(共催：早稲田奉仕園)

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もうーこの時代の中で聖書からメッセージを読み解くー」第2期

『創世記(原初史)から読み解く現代～神、自然、人間をキーワードに』

講師：上林 順一郎さん(日本キリスト教団引退教師)

るイエスを見出した。彼は言う「拷問を受け、リンチを受けた多くの黒人にとつて、十字架につけられたキリストは彼らの生の大いなる矛盾の内に現在する神の愛と解放のしるしとなる。神は無力な愛でもって、敗北の瀬戸際から勝利を奪い取るのだ」。そしてこう結ぶ「私が50年以上も前にデトロイトで聞いた黒人の血の叫びは、いまもアメリカ全土で響いている。当時その叫びに耳を傾けた白人はいなかったし、いまでも彼らにそれは届いていないようだ。しかし私たち黒人は、子どもたちが川へ投げ込まれ、永遠の彼方へ捨て去られ、道端で撃ち殺されるのを前に、口を閉ざすことはしない。黒人の命は重く、神はその叫びを聞いておられる」。我が国でも、生活に困窮を覚え出口を見いだせない人が増えている。その中であつて共に生きるとはどういうことが問われている。

日時：～2021年3月、第4水曜  
14:00～16:00

会場など：日本キリスト教会館1階16号室、Zoomによるオンライン併用

参加費：全6回 5,500円(学生3,000円)

■**2020年度 聖書を読む講座II**(共催：早稲田奉仕園)

〈新しい聖書の学び〉  
「マルコ福音書をジックリと読む」第3期

講師：山口 里子さん(聖書学者)

日時：～2021年2月、第2火曜  
18:30～20:00

参加費：全6回 5,500円(学生3,000円)

方法：Zoomによるオンライン講座

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2020年度修学院フォーラム「社会」第2回「キリスト教徒はコロナ禍をどう見るか」**

日時：2021年2月7日(日)  
14:00～16:40

講師：佐藤 優さん(作家・元外務省主任分析官)

会場など：Zoomによるオンライン、または関西セミナーハウス別館(10名まで)

参加費：2,000円(学生500円)

財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教団 アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

TEL 075-711-2147

FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館1F

TEL 03-3207-6198

E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail:office@academy-kansai.org

**賛助会費・寄付金報告**

2020年9月1日～10月31日  
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター 賛助会費**

古賀 博 5,000  
高畑 昭久 5,000  
北原 和夫 10,000  
松浦 茂長 5,000  
根津 建 5,000  
横野 朝彦 10,000  
平井 文則・祐美子 10,000  
大鹿 康廣 3,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

中井 博雅 5,000  
日本基督教団 洛南教会 3,000  
許 昌範 東京グロリア教会 10,000  
足立 素夫・光 2,000  
毛利 亮子 3,000  
大野 朝男・寿子 5,000

神学生プログラム寄付金

八重樫 捷朗・芙美恵 10,000  
三好 祐輝 5,000  
吉居 美緒 3,000  
神保 信子 10,000  
森山 浩二 3,000  
笠原 光見 5,000  
吉永 直子 5,000

根津 建 5,000

◆**関西セミナーハウス 寄付金**

牛尾 宣夫 40,000

◆**関西セミナーハウス活動センター 賛助会費**

吉中 直子 5,000  
網野 俊賢 5,000  
丸山 まり子 5,000  
葛原 茂樹 10,000  
酒井 涼子 5,000  
田中 義信 5,000  
金山 顕子 5,000  
糸原 良禎・由美子 10,000  
關岡 一成 5,000  
菅 恒敏 5,000

寄付金

滝澤 佐紀子 1,000  
網野 俊賢 4,760  
中村 信博 1,000  
ハッチャー保子 10,000  
柳井 一朗 1,000  
荒井 加代子 100,000  
日本基督教団室町教会 5,000  
山崎 陽子 100,000

以上感謝をもってご報告申し上げます。